



人権教育だより

令和6年度

特集号

島根県立大東高等学校

今回は、織部祭でのフォトジャーナリスト安田菜津紀さんによる人権教育講演会の特集号です。

「写真で伝える世界、東北の“今”」 D4P副代表:安田菜津紀 2024.9.1

台風の影響でオンラインではありましたが、写真と共に多くのことを伝えてくださいました。一部ですがご紹介します。

- ・ 高校時代にカンボジアを訪れたことがフォトジャーナリストの道に進む原点になったこと。
- ・ 紛争地の以前の美しい風景と、現在の破壊されてしまった光景
- ・ 笑顔の少年の足下に不発弾が写っている写真。日常化している爆撃。
- ・ 爆撃で足を失った少女の話……。
- ・ 東日本大震災のとき、お義父さんが撮影された津波が押し寄せる映像。
- ・ お義母さんを探されるお義父さんやお義母さんが見つかったときの話。
- ・ 仮設住宅で暮らす家族、子供たちが前を向いて生きていく話。
- ・ 被災者でもあるけれど、恩返しではなく難民への「恩送り」をしている人たちの話。



その他、多くのことを安田さんから生徒たちは感じ取ったようです。裏面のように多くの感想を寄せてくれました。

講演を終えて ～生徒からの質問に～

当日は、質問の時間がとりにくかったこともあり、後日、生徒の皆さんからいただいた質問に対し、安田さんから回答をいただきました。

🌸 シャッターを切るときどんな気持ちで切っていらっしゃいますか？

⇒ 深い質問ですね……。不条理な出来事への**怒り**です。それは、二つあって、目の前のことに対するものであり、同時に、国際社会の中の一員である自分、行動できない自分に対する怒りです。

🌸 私たちが難民や子どもたちの役に立つには、何をすればよいですか？

⇒ 日本の中にも、難民として避難してきている人たちやその家族がいます。そうした人たちが孤立しないための支援をしたり、そうした支援をしている団体を支えることも、大切な役割です。

🌸 戦争について考えるだけでは何も変わらないと思う。変えるために何をすればいいですか？

⇒ たとえば私たちが暮らす日本の政府が戦争に加担していないかを見ていく必要があります。戦争をしている国から武器などを輸入したりすることは、その国の武器産業を潤すので、戦争に間接的に加担することになります。そうした動きを知ったときに、「やめてほしい」と意思を示すこともできることのひとつです。

〈生徒の感想より～抜粋～〉

- ・今回の講演会で、紛争や戦争で何も悪くない多くの子供が亡くなったり、勉強が出来なくなったりしてほんとに今の暮らしは普通ではないんだと再確認出来ました。
- ・自分たちが平和に暮らしているのは当たり前のことじゃないと改めて感じた。今日という日は死んでしまった人がどうしても生きたかった一日だから命を大切に生きていく。
- ・写真を見てとても心が痛みました。なぜ、罪も犯してないのにそうなるのかと思いながらも、自分がどれだけ恵まれているのかも改めて知れた。そして、なんでもいいから貢献したいです。
- ・東日本大震災で被災された方が空襲を受け寒い地域に逃げられた方に支援を送るのが本当にすごいなと思いました。お互いに助け合いながら生きていくことは必要だなと思いました。今でもどこかで空襲を受けて帰る場所がない人もたくさんいると思うのでまずはニュースなどで見たときに気づけるようにしたいです。
- ・今現在起こっている戦争について実際の写真や現地の方の思いを聞いて、なぜ戦争があるのかについて再度考えることが出来ました。今の比較的平和な日本との違いを知り、不安しかない生活をしておられる方々の気持ちを理解することが出来ました。
- ・三人兄弟の話で一番上の兄は爆弾の真下にいて即死、二番目の兄は重症、妹は右足を切断しなければいけないという場面を考えてみると、とても悲惨なことだなと思いました。ただ生活をしていただけなのにその日常を奪われるということに腹が立ちました。争いをやめてほしいと願うだけでなく行動に移せるようにしたいです。
- ・不発弾がある状況で子どもたちが遊んでいること、また不発弾によって亡くなってしまった子どもがいることにとても驚きました。また東日本大震災の時警戒アラートの予想を上回る津波が押し寄せたということがもし自分に起きたら何を信じて行動していいかわからなくなると思いました。
- ・世界での話、東北での話を聞いてすごく心が苦しくなるような写真が多くて今でも苦しんでいる人がいるのなら自分もなにか役に立ちたいなと思いました。東日本大震災で被災した人でまだ自分の家に帰れていない人もいると知って早く以前までの生活に戻れるように支援したいなと思いました。
- ・実際に体験したわけではないので本当の苦しさを知ることはできませんが、一枚の写真からこうだったのではないかと様々なたくさん想像させられました。その一枚の写真で世界の状況を知り、考え、忘れない、写真とは偉大だなと思いました。たった一枚だからこそしっかり頭に残るのだと知りました。
- ・自分は震災などの被害を受けたことがないので、今の環境がとても恵まれていることを写真を見ることで再認識できた。また、恩返しならぬ恩送りという言葉がとても印象に残り、このようなことができる大人になりたいと思った。
- ・爆弾によって亡くなってしまったお兄ちゃん、足を失ってしまったサラちゃんのお話がとても印象に残っています。なぜ戦争をするのか、それは被害を受けた人が一番知りたいことなんだと気付かされました。
- ・実際目で見るものは写真だけだったけど、その写真一つ一つから戦争の痛ましさを経験した人の苦しそうな表情が読み取れました。日本という比較的安全な場所で過ごしていると想像のできないような貧困生活や戦争が身近にある生活はすごく怖いなと思いました。写真だからこそ伝わる恐ろしさが感じられました。
- ・犬と亡くなったお義母さんの話が一番印象に残っています。どれだけ犬の事を思っているかわかります。私も犬を飼っています。もし津波などが来た場合にどうするか考えたいと思います



10/26(土)に、大東交流センターで他団体主催の講演会がありました。なんと講師は安田菜津紀さん!!ご縁だなあと感じ、講演会を聴きに行きました。リアルでお話を伺うと言葉の重み、思いの強さが伝わってきました。そして安田さんの気さくなお人柄も。機会があれば、またお話を聴いてみてください。

○ 2学期の人権教育ホームルームのテーマは……

11/12(火) 2年生:「子どもの権利 ヤングケアラーってなに?」～井上恵理子さんを招いて

11/19(火) 1年生:差別と偏見について考える 3年生:結婚差別をなくすために